

令和5年度 第1回臼杵市総合教育会議 会議録

開催日時	令和5年11月10日（金） 10時00分開会（～11時40分閉会）	
開催場所	臼杵市役所臼杵庁舎中会議室	
出席者氏名	臼杵市長 中野 五郎 臼杵市教育委員会 教育長 安東 雅幸 委員 神田 岳委 委員 村上 睦美 委員 佐藤 雄一 委員 木本 邦治 (事務局) 秘書・総合政策課長 安東 信二 総括課長代理 田淵 雅崇 秘書・総合政策課副主幹 青山 昌平	(教育委員会事務局) 教育次長兼教育総務課長 後藤 誠也 学校教育課長 新名 敦 社会教育課長 川辺 宏一郎 文化・文化財課長 神田 高士 学校教育課参事監 麻生 幸誠
欠席者	なし	
会議事項	1. 開会 2. 議題 (1)学力向上の取組について・・・学校教育課 (2)臼杵の食文化を活かした教育について・・・学校教育課 (3)臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会について・・・秘書・総合政策課 (4)その他 3. 閉会	
開会 (事務局) 秘書・総合政策 課長	皆様おはようございます。 会議を始める前に、配布資料の確認をお願いします。次第、説明資料及び臼杵市学校教育指導方針（全体像）、資料1～資料3までです。お手元に揃っておりますでしょうか。 それでは本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。 私は本日司会を務めさせていただきます秘書・総合政策課の安東と申します。よろしくお願いたします。 会議を始めます前に、本日は1名傍聴の方がいらっしゃいますのでご報告いたします。 本日、会議終了時刻は11時20分を予定しておりますので進行にご協力をお願いいたします。 まず初めに、本会議の設置について簡単にご説明をさせていただきます。 先ほど、配付しております説明資料と記載しています「臼杵市総合教育会議について」をご覧ください。 平成27年の4月に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行されまして、地方公共団体の長と教育委員会が、相互の連携を図り、より一層民意を反映した教育行政を推進していくため、すべての地方公共団体に、総合教育会議の設置が義務づけられました。	

この総合教育会議は、市長と教育委員会の執行機関同士が十分な意思疎通を図り、教育の課題やあるべき姿を共有して、重点的に講ずべき施策について協議・調整を行う場でございます。

また赤枠で囲んでおります、本市における、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その基本理念や施策の根本となる5つの方針を定めた臼杵市教育大綱を定めております。

この大綱のもと、家庭・学校・地域と連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくこととしております。簡単ではございますが、総合教育会議の説明は以上でございます。

それでは、ただいまより令和5年度第1回臼杵市総合教育会議を開催いたします。開催にあたりまして、中野市長より、ごあいさつを申し上げます。よろしくお願いいたします。

市長

皆さんおはようございます。

令和5年度第1回の臼杵市総合教育会議の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様方には平素より、教育の振興につきまして、ご尽力いただいていることに対しまして感謝申し上げます。

また、市政全般につきましても、特段のご理解やご協力いただいていることに対しまして、改めて御礼を申し上げます。

この総合教育会議につきましては、先ほど課長の方から説明がありましたように、一言で言えば、市民の教育に対する要求・期待そういうものを、教育行政と市長が連携して受けとめてしっかりした教育をつくっていく。

そういう趣旨ではないかと思っています。

この法律ができる時ですが、首長が教育行政介入するためではないかという意見もありましたが、そういうことではなくて、やはり基本的には学校にしても教育部のことに際しても、設置者は市でありますから、市長が教育に関しての予算を編成する権利もありますし、市長の方が条例の提案権もありますので日頃から、お互いがどうしたら、この臼杵の教育環境を充実させていくことができるのか、明日の臼杵を担う子どもたちの教育をどうすればいいのかということで意思を疎通しながら課題をはっきりとらえて、そしてそれに向かって努力していく、そのための一つの場というふうに私は考えて位置付けております。

また、令和5年5月に新型コロナが5類へと移行したということで、通常の日常へ戻りつつありますが、報告を毎日見ているのですが、新型コロナはゼロではないし、今はインフルエンザが非常に増えて、学校・学級の閉鎖などいろいろあります。

環境変化に伴っていろんな課題が起こるかもしれないかもしれませんが、そういうことを含めて考えたときによく日常戻りつつあるし、逆にコロナ禍において、今まで水面下で見えなかったような教育の課題も、学校現場、或いはまた教育行政の中であるかもしれないし、そういうことについても、いろいろ情報を出していただいて私の方も学んでいきたいと思っています。

今日はそういう意味で、この臼杵の教育の課題とあるべき姿について、情報共有、議論してお互い意見を交換することによって、明日の臼杵のことについて、特に私はそのまちが人を育てるし、その育った人がまちを一層高めていく、この循環を作っていくかということは、一番大切だと思っています。

後でまた議題にあります、今回、西中学3年生と意見交換をして大変心強く思っています。

大変良い子供たちが育っているなと思いました。

それがまさに、まちを今担っている我々がまちを育てているし、そういう中から人がステ

<p>秘書・総合政策課長</p>	<p>アップした白杵をつくっていく。 こういうことをこれからもうまくいけるように連携して取り組みたいと思っております。 どうか限られた時間ですがよろしく願いいたします。</p> <p>それでは議事に入らせていただきます。 なお本日の会議の終了時刻は11時30分を予定としておりますので、進行にご協力お願いいたします。それでは議事の進行につきましては、本会議の議長であります、中野市長をお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは早速、議事に入らせていただきます。 現在の取り組み状況として本日は3点の議題について、それぞれの担当から説明を受け、意見交換をしたいと思っております。何卒皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。 なお、本日の議事は、記録をとりますのでご発言される委員は挙手の上、マイクをお持ちになって、ご発言をいただきますようお願いいたします。 それでは、議題1の「学力向上の取組について」学校教育課より説明をお願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>皆さんおはようございます。 学校教育課長の新名でございます。 まず議題1の「学力向上の取組について」私の方から説明をさせていただきます。 着座にて説明させていただきます。 前のモニターの方にも資料を映しますが、委員の皆様には紙ベースのものがありますのでどちらか見やすい方を見ていただければと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。 まず資料1の「白杵市市総合教育会議資料」ということで、学力の方になります。 今回につきましては、大分県の学力状況調査結果、これは4月25日に行われたものでございます。 それと、全国の学力定着状況調査の結果、これは4月18日に行われたものですが、学校現場ではこの結果を受けて分析をして取り組みを進めている最中ですが、この二つがやはり大きな指針となりますので、この結果に基づいて話をさせていただきたいと思っております。 まず1ページ目でございます。 1ページ目は、大分県の学力定着状況調査の経年変化に全体スコアをまとめたものでございます。 まずこの一番上のところをご覧ください。 これが標準スコアの一覧になります。 小学校の5年生と中学校の2年生で行われたものですが、小学校は教科が国語と算数と理科、いずれも知識と活用の二つの項目で評価されております。 そして、中学校が国語社会数学理科、英語の五教科で行われております。 この大分県の学力定着状況調査につきましては、偏差値50をしっかりと上回るというところを目的に行われているところでございます。 これで見たときには、白杵市はすべてこの黄色の網掛けの部分が偏差値50を超えたところになります。すべて50を超えている。 加えて、2段目が大分県の状況なのですけども県との差を比べてもすべてプラスというところで、しっかり、いわゆる、知識の部分と活用の部分を上回ることができているというふうに考えております。 続きまして2ページ目の資料となります。</p>

これが、臼杵市の偏差値の推移ということになります。

こちらのグラフが、下が小学生、右の方は中学校ということになるのですが、小学校は9年連続で3教科とも偏差値50を超えて年によって差はあるのですが、偏差値50をしっかり、これが安定的にできております。

そして、中学校の方は、2年連続で5教科と偏差値50を超えることができたというふうになっております。

少しやっぱちょっと気になるのが、少し昨年度と比べて今年ちょっと落ち込みが、グラフが右肩下がりになっているのですが、これにつきまして説明したのが、次の3ページのグラフになります。

これが今の中学校2年生のグラフなのですが、この中学校2年生は小学校5年生にも同じ大分県の学力定着状況調査を受けております。

そして、小学校5年生のときにも一応平均としては50を超えることができていたのですが、理科の活用が49.4ということで超えることができませんでしたという状況で、県との差を比べた時に、やっぱり県とのちょっとマイナスという数字が見られたのですが、

今年度、中学校2年になっての数値を見ると、偏差値50をしっかり超えることができて、県との差がプラスということで、比べてかなり上位の成績を収めることができるようになっております。

つまり5年生のときから比べて、全体はこの小学校5年生から6年生中1という、また中2にかけて、指導によってかなり成績は向上させることが経年比較をするとそんなことが言えるのではないかと考えております。

続きまして、全国の学力学習状況調査の結果を示させていただきたいと思います。

これは小学校6年生と中学校3年生が受けたものですが、全国の数値につきましては偏差値ではなくて、それぞれポイントについて、全国と県と臼杵市と比べたものになっております。

小学校6年生は国語と算数ですが、臼杵市はこの黄色の網掛けにある通り、全国、県とも、国語算数ともかなり上回るという数値になっております。

同じく中学校3年生ですが、中学校3年生も同じく全国、県と比べても、どの教科についても大きく上回ることができているというふうになっております。

続きまして5ページになります。

5ページはその全国学力定着調査の結果を、経年変化をグラフでまとめているものになります。

そこに左側に28ショックと言われ、県下で成績の落ち込んでいる時期がありました、もちろん全体と比べるものではありませんが、一定程度しっかり基礎学力を身につけるということは教育委員会の命題だというふうに考えております。

そういう部分から様々な施策を取り組む、特に授業力向上、そして学校で落ち着いた環境で授業を行うということをしっかり取り組んだ結果が、このような形で、年によっては少し落ち込んでいるところもあるのですが、かなり上昇することができているというふうに考えております。

また、全国の結果につきましては、全国の子供たちが受ける状況になりますけれども、こういった県下でも比較して、臼杵市はもうトップクラスの成績をほぼトップの成績をおさめることができていますという状況です。

続きまして、こちらは全国学力学習状況調査の中で質問紙という形で、様々子供たちにアンケート形式でとったものでその結果を示しているものでございます。

まず、児童質問紙これは児童の方が小学校5年生の結果ということになります。

児童の方ですがかなり前向きな回答が多いように考えています。

例えば一つ目のマルですけれども、先生が良いところを認めてくれていると感じている児童が全国より多いということになるのですけれども、数値的には全国比と比べてこちらには示しておりませんが、7.3%ほど認めてくれているという割合が多い。

かなり前向きに、実は子供たちは捉えているというふうに考えております。

また一方で、上の三つの五つのマルは肯定的な回答なのですけれども、下の三角が課題となる部分と考えております。

新聞を読む習慣があると回答した児童が全国よりも少ない。

また、外国の人と友達になるや英語を使うような職業に就いたりしたいと思う児童が全国よりも少ないと。

特に新聞を読む習慣があると回答した児童が全国よりも少ないということなのですけれども、全国的に新聞を読まないことがかなり課題になっていると思っています。

一方で、こちらには示していないのですけれども図書館の活用率、これについて臼杵市は全国と比べてかなり高い数値となっています。

例えばですねこの項目の中で、大体週に4回以上行くという数値の項目があるのですが、この項目は全国比で6.1%多いです。

またですね、「読書は好きですか」という項目があるのですけれども、「とても当てはまる」と回答が全国比で3%読書は好きですかという本当に好きですと答えています。

ですので、図書館にはよく行って読書も好きのだけどなかなか新聞を読まないという全体像がちょっと浮かび上がってくるようなところですので、このようなところはやっぱり新聞を読むとか家で読書をするとかいうことについては家庭との連携がかなり必要なのではないかな、図書館では読むけれども家庭での読書とかまだまだ足りてないのではないかなというところが、今後課題としてあるのかなと思っています。

続けて生徒質問紙ですけれども、この生徒質問紙は中3の子が答えた内容になります。

これにつきましては、肯定的な回答も多いのですけれども、気になるのが一番上の三角ですが自分にはよいところがあると思う生徒が全国よりも少ない。

また、学校に行くのは楽しいと思っている生徒が全国よりも少ないという形で、ちょっと自己肯定感が全体的な話なのですけれどもそこが少し低いかなというところが今後の課題かなというふうに思っています。

あわせて、こちらも、図書館の活用率等についてはやっぱりとても気になるところなのですけれども中学校3年生に比べても、図書館の活用率これは高いです。

同じく、週に4回以上行くと答える生徒は、全国比で6.6%多いという形でよく図書館に行って本を読んでいるということは言えます。

また、1日、どれぐらいの時間読書をしますかということ聞いたときにも全国の割合が高いと。

やっぱり図書館活用とか本を読んだりということはしているのだけれども、なかなか自己肯定感を高めるということがまだまだできてないという中学校3年生の像が浮かび上がるのかなというところがあります。

続きまして、最後の7ページの資料ですけれども、これは学校の先生、学校質問紙という形で学校の先生に質問した項目になります。

小学校の学校質問紙につきましては、授業や学級の問題を抱えている児童に率先して話し合いの場を設けているとか授業改善が進んで児童自ら発言したり問題解決したりすることができているというような項目が高いということ。

そして、特に上から四つ目、ICTを活用した授業を常時行い、そのためのサポート体制が充実しているということの肯定的意見が非常に多いということから、先生方はかなり前向きにICTとか情報機器を活用した授業に取り組んで、それが成果を得ているという実感を得ているという姿が出てきています。

	<p>また一方で、他者との情報交換、また問題解決に向けての話し合いなどが、協同的な学びの充実が全国にも低いという数値が三角で出てきていますので今後このような活動をしっかり行うということ。</p> <p>そして、一番下、タブレットの家庭での利用が進んでいない。</p> <p>これは4月段階の結果で、その後、かなりタブレットを持ち帰って使うようにという形で指導を行い、今10月、11月現在はかなり進んできているとは思っているのですが、そんなところに課題があるかなと思っています。</p> <p>続きまして中学校です。</p> <p>同じく中学校質問紙ですが、二つ目一つ目で校内研修も進んでいて、そしてグループで協働的な学びを活動したりできているということで、一方では中学校では、自ら考えたりグループで協議をするなどの問題解決学習はかなり進んでいるという先生方の肯定的な意見があります。</p> <p>また一方で一番下ですが、三角ですね、ICTを活用した校務の効率化、事業改善にかかわらず、働き方改革とも絡むと思うのですが、そういう十分に取り入れた取り組みが全国に比べて低いというような結果もあります。</p> <p>そういうようなことを踏まえながら現在取り組んでいるという状況でございます。</p> <p>以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今の説明について、ご意見やご質問がありますでしょうか。</p> <p>詳しい分析をしていただき、今年は県内18市町村でトップクラスとのことですね。</p> <p>小学校中学校とも臼杵市はトップクラスということなので、皆さん方や先生方の努力が少しずつ実ってきていると思います。</p> <p>今、学校教育課長から説明があった中で私の方から質問したいのですが、子供の読書とか国語の成績とかでは、やはり図書館専門員を置いていることをプラスという評価していいですか。</p>
学校教育課長	<p>はい。</p> <p>評価していいと思っております。というのがやっぱり図書館に行くという数は明らかに全国に比べても多いということ。</p> <p>そして、特にコロナ禍でかなり配慮が必要だったので、図書館専門員の方がコロナ対策でフィルターシールドを設けたり、順番に手指消毒をするということによって、ある意味子供が安心できるという環境がありましたので、図書館専門員がいたことで、図書館に行く子供が増えているのは間違いないと思っております。</p>
市長	<p>大分県下は臼杵市だけだと思うのですが小中学校18校に、市の独自の予算で図書館専門員を置いて学校の子供たちの読書環境を作っている。</p> <p>全国でもほとんどないと思いますし、これにかなりお金がつき込んでいますがそれなりのそれ以上効果が出てきているという結果で私も一安心しております。</p> <p>もう一つ、3ページは確かにこの経年変化で、小学校5年生が中学2年になった時、すべてが向上している、つまり5年生の実力・実績と、中学校2年生のときの実績が全部プラスになって、具体的にはどういうところがこういうプラスになっている要因かを改めてとか指摘できるか教えていただきたい。</p>
学校教育課長	<p>まず、臼杵が進める小中一体教育がかなり効いているのではないかとこのように思っていますので、このテストを行って5年生のときに課題をしっかりと踏まえた上で、小学校と中学校</p>

<p>市長</p>	<p>が連携して取り組みを進めていく。</p> <p>通常小学校から中学校に行くと、中1ギャップとかいう形でうまくいかないことが多いのですが、ブロックごとにスムーズにつなげる働き、または中学校の先生が小学校に小学校の先生が中学校に行くという形で、そのスムーズな繋がりをしてくれていることが、このような結果に繋がっているのではないかと一つ分析をしているところです。</p> <p>ほかにこの件についてはよろしいでしょうか。</p> <p>また全体で時間があれば振り返って質問、意見聞きたいと思います。</p> <p>続いて「臼杵の食文化を活かした教育について」学校教育課より説明をお願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>はい。</p> <p>続きまして、議題2の方で今年度は食文化というキーワードで、教育委員皆さんのご意見いただきたいと考えております。</p> <p>まず1枚もののシートで、「臼杵市学校教育指導方針（全体像）」をお配りしているので、そちらで最初の前提的な話をしたいと思っておりますのでそちらをご覧ください。</p> <p>こちらが令和5年度の臼杵市学校教育の指導の全体像となります。</p> <p>～臼杵の未来をたくましく拓き、超スマートをしなやかに生き抜く、臼杵っ子の育成～と いうことで進めているのですけれども。</p> <p>この1枚ものを学校で大きくポスターにして貼っているのですけれども、これが臼杵市教育委員会の目指す一番根幹となる部分と説明をする重要ツールだと思いますので、先に説明をさせていただきます。</p> <p>イメージとしては、大地にしっかり根を張った大きな大樹、これが目指す教育のイメージです。</p> <p>まず根っこの部分が、まず三つの教育「郷土の教育」「協力の教育」「響き合いの教育」。</p> <p>これは三つの教育ということで、もう臼杵市は伝統的に続けているのですけれども、一番下の土の部分に、「今日育」教育ですけれども。</p> <p>機を逃がさない教育、これは全教職員が、今日やるべきことをしっかりやる、それを意識して教育に取り組むというある意味行動の指針のようところで全体のベースとなるということで、土の部分にそれを示しています。</p> <p>その上に、学校や家庭や地域、それが一体となってしっかりとした幹を張って、「郷土の教育」「協力の教育」「響き合いの教育」三つの教育を進める。</p> <p>そして、中学校小学校、幼児教育施設が一体となって幹として繋がりがながら、様々な実、葉っぱこれを実らせるという形のイメージを1枚ものに示したものになります。</p> <p>そしてそういう意味で、今回食文化という形で説明をさせていただこうと思っています。</p> <p>食文化につきましてはまさにこれ三つの教育の、そのものであるというふうに思っています。</p> <p>そのことについて今回お話をさせていきたいというふうに思っています。パワーポイントの方です紙のものを2イン1で資料配っておりますのでそちらとこちらの画面そちらで見やすいを見ていただければと思うのですけれども。</p> <p>食文化を生かした教育についてということで今日は発表させていただきます。</p> <p>もうご存知の通り、臼杵市は食文化創造都市に指定をされて、学校教育でも様々な取り組みをしております。</p> <p>ただ、様々な取り組みをしていくのですけれども、今までは系統的に行う部分であったり、教育委員さんまたは市長からしっかりこのような方向でという価値づけであるとか方向性について議論いただく場がなかなかなかったので今日それをいただければと思っています。</p>

中身としては大きく四つ項目を考えています。

一つ目が農泊体験活動、そして二つ目が学校給食を活かしたと取り組みです。

そして三つ目が小と高の連携の取り組み、四つ目が幼と小の連携の取り組み、2につきましては、学校給食担当の麻生参事監の方から説明させていただいて、1・3・4につきましては私の方から説明させていただきたいと思います。

まず農泊体験活動ですけれども、先ほど言いましたように三つの教育の原点、「郷土の教育」「協力の教育」「響き合いの教育」これがまさに体现できている形のものかなというふう考えております。

特に農泊とはと説明をしているのですが、農家に入って普段の暮らしを体験しながら、様々なものを学ぶということで、本当にこれを臼杵ならではとっていて、豊かな自然、そしてそこに関わる人、そして食文化があるからこそできる活動だと思っています。

ねらいについては大きく四つ書いておりますが、主な部分としては、農家の仕事や農業の大切さを学ぶ。

それと、自然とともに生きる暮らしを体験する。

合わせてやっぱり人と人との関わり合いの中から豊かな人間の育成に繋がるというふうに思っています。

そして、今年で全市展開 11 年目農泊の歴史ということで書いているのですが、

平成 21 年から希望する市内小学校を対象に自然体験活動を実施したのですが、平成 25 年からは、これももう市長の号令一下というとおかしいのですが、やっぱり臼杵で住んでいる子には農泊をみんな体験させて教育に活用するということがとても大事だということから、平成 25 年からは、市内の小学校 5 年生全員を対象に実施していて、今年で 11 年目となります。

ただコロナ禍でなかなか実施できないという非常に困難な時代が 2~3 年ありましたけれども、小学校 5 年生と 6 年生の間で日程調整をしながら、今のところ全員実施で順調にみんな体験できているという状況でございます。

この 11 年間で約 3500 人の児童が農泊体験をしたということです。

感想を聞くと「修学旅行よりよかった」というのがほとんどです。

そして、私も学校現場に聞くと、農泊関連の方々から、とても好意的な「いい子だった」と褒められてですね、とてもこうそんなところで子供がニコニコしながら帰ってきて、体験、人との触れ合いが必要本当にすばらしい活動これが続いているという歴史になっているのが魅力あるように考えております。

それぞれの家庭における農泊メニューということで、ご存知の通り農泊は各家庭ごとにメニューが全然違います。

様々なご家庭によって全然違うメニューが様々な魅力的で様々な活動あるのですが、やっぱりキーワードで「食文化」そこやっぱり根底にあって、自然とかそういうところあって様々な経験ができております。

次の写真はちょうどこの「広報臼杵」の表紙が農泊ということで非常に良い写真を載せておりますので、このような形で取り組んでいるということと、市報を載せたのは、これは教育委員会だけではできなくて、やっぱり市役所と一体になって取り組まないと、内容の充実等ができません。

それが今できているというところで、このような活動になっていると考えています。

続きましてこれは活動の写真、これは子供たちの微笑ましい写真がいっぱいありますが、特に例として、これは農業の活動をするとか、様々な子どもと人との関わり、または動物との関わり、そのようなことが行われているという例がたくさん出て、非常に子供たちが笑顔で写真に写っていますし、先ほど言ったのですが、農泊家庭の人と別れたくない」とかで、またそのような声がたくさん聞けてとてもいい活動だなと思っています。

学校教育課
参事監

これも同じく写真ですけれども、家にはですね、ピザ用の窯があったりとか、またはいろんなもう普段できないような料理作業体験ができたりとか、家庭ではなかなかできないことが豊かな食文化、自然そして環境を生かして取り組めていることが一つ大きな魅力だというふうに考えています。

続きましてこれはですね、平成 23 年に修学旅行協会の発行した、その中の記事ですけれども実はこれは麻生参事監がちょうどこの事業を担当していたときの記事。先ほど 11 年間続いているというのがありましたが、この歴史的な部分という一つの例として示させていただきましたので、この後は麻生参事監にバトンパスします。

はい。

これについては、なぜ臼杵市内小学生全員を農泊するようになったかということに結びつくので一応載せさせていただきました。

その当時、全国では民法法の改正で、どこもグリーンツーリズムの立ち上げが数多くなりまして、もう都会への営業合戦といいますか、うちに来てくださってことですごい経済的な面を考えた、営業が白熱したということで、なかには泊まった子供たちへのセクハラ問題であるとか、アルコールの問題とか、事件も多く発生した時期で、それはちょっと会議の中で違うんじゃないかということで、吉四六さん村の方が皆で考えて、21 年に 3 校を受け入れてみて、そのあと小学校の運動会に招待されたり、その後もずっと交流が続いたり自分たちが「地域の子は地域で育てる」といった一翼を担うというところで生きがい自分たちも感じて、これはある意味福祉の事業であり、子どもたちや受け入れ家庭の方双方にとってすごくメリットがあるということから、それで今中野市長いらっしゃいますが、吉四六さん村が、要望受け入れをしたいんですがということでお願いしたところ、それから、毎年予算も負担していただいて、大部分を市の予算で負担しながら受け入れをしていただいているという状況で今に繋がっているということでもあります。

以上です。

次は学校給食に入ります。

学校給食の運営方針ということで、これ私会計ということでありまして運営委員会がごさいます。

その中で毎年運営方針を定めて皆さんのご了承いただいて運営しているということでもあります。

下の方に「献立の方針」というのがあります。

赤字で書いてあります。旬の産物はもちろんなのですが、地元の産物をできるだけ多く使うということで、その優先順位が吹き出しに書いております。

まずはほんまもん野菜ということで、それが手に入らない場合は給食畑の野菜、それが手に入らない場合は一般の流通の野菜を使用し、その一般の流通の野菜もできるだけ近いものをから使っていくというようなことに努めております。

あと郷土食を取り入れるということで、黄飯とか、臼杵の郷土料理をできるだけ取り入れようということで献立も考えて行っております。

食育の推進につきましては、今、栄養教諭が市内に 3 名配置をしていただいております。

市内の全クラスに、年間 100% 入って、食育授業を行うという目標で推進しております。

この図の水色の部分の三本柱で食育の推進を行っているところです。

右側の上の食育授業を 100% のクラスに入るのを目指していますので、左側の給食指導は、給食の時間に訪問して、子供たちと話しながら、今日の給食どうか、給食についていろいろ話をするなどの活動もやっております。

右下の啓発も食育日より、保護者等も含めて啓発を毎月行っております。

次に給食以外の取り組みであります。

<p>学校教育課長</p>	<p>海洋科学高校の授業とコラボした例であります。</p> <p>海洋科学高校のマリンスクール授業ということで臼杵産の魚で干物づくりの授業がありましてそれと、南中の炭焼きの炭を使ってそれでその干物を焼いて食べるという「カマスの干物焼き体験」ということで令和4年度やっております。</p> <p>これ令和5年度はアジの干物で今年度やってみようということで今、計画をされております。</p> <p>先ほど、ほんまもん野菜につきましてはかなりの使用率となっておりますが、海の方のほんまもんについても、臼杵の水産物と給食を何とかコラボできないかということで、今、水産関係者等々と協力して、協議会の中で行ったもので、フカ料理メニュー化のための試食等の実験を行っております。</p> <p>続きまして、教育委員会等でもう報告をさせていただきましたが今年度4月に市の保有する配送に使っているトラック6台のうち4台を更新しましたが、そのトラックにそれぞれ市内の西中と北中の美術部の生徒さんに絵を描いていただいて給食にとどまらずに臼杵の食文化のすばらしさをPRできる絵を描いていただきそれを拡大ラッピングして、今、市内を走り回ってもらっています。</p> <p>次は8月の中旬に行いました、「オーガニック給食を給食現場から進める研修会」ということで、C P Pフランスという団体がフランス国内でオーガニック給食を進めております。そのシェフを国内に招いて全国で8ヶ所研修を行っております。そのうち1ヶ所臼杵で行いました。</p> <p>臼杵の学校給食センターの栄養教諭や管理栄養士だけではなく、調理員の参加してもらいました。</p> <p>そして市内の子ども園等のから参加をいただきまして、総勢22名の先生方が参加して、フランスの素材を生かした献立づくり、ソースづくりとか、調味料への考え方とか、フランスの事例を学ぶとか、意見交換も含めて有意義な1日となりました。</p> <p>次はこれから行う部分であります。</p> <p>今度11日来週ですが、「未来につなぐ食の循環」ということで、食文化による郷土づくりカンファレンスが市民会館で行われます。</p> <p>臼杵学校給食センターの平川管理栄養士もパネラーとして参加しています。</p> <p>また、かいぞえ子ども園の佐藤先生も出るようになっております。</p> <p>これも先ほどのC P Pフランスの橋渡しをしていただいたC P Pジャパンの本田さんという方がコーディネーターとして食の循環について意見を交わすということでもあります。</p> <p>ちょっとお知らせです。</p> <p>続きまして、3の「小と高の連携の取組み」ということで紹介させていただきます。</p> <p>ちょうど、11月9日の大分合同新聞の記事が出てきましたので、最初に取り上げてみました。</p> <p>臼杵小学校で交流授業ということで、臼杵高校のユネスコ部が小学校の5年生に臼杵の食文化について説明するという取組みを行いました。</p> <p>きっかけとしましては、ちょうど今年の夏に、県の高校教育課が主催で高校説明会があります。</p> <p>これは通常高校へ臼杵では海洋科学高校に行って、海洋科学高校と臼杵高校の説明をするのに中学校の先生が参加するのですが、今年からぜひ小学校の先生も参加してくださいと。</p> <p>意図としては、中学校だけじゃなくてキャリア教育を考えたら小学校が高校を知る必要があるということと、やはり小中高の繋がり、こども意識しながら教育を行うというところでやったところ、小学校の先生がとても興味を示し、小学校と高校の繋がりができて、独自に、まず臼杵高校のユネスコ部が臼杵小学校に行って説明をするという授業がちょうど実施</p>
---------------	---

できたものというふうになります。

ちょうど11月2日に臼杵小学校の多目的教室で行われました。

これはすべて臼杵高校ユネスコ部の2年生3人、1年生6人が臼杵小学校5年生の51人にユネスコ食文化推進都市について説明をしたということです。

やはり効果があるのは、先生たち大人が言うよりもやっぱり年代に近い高校生がユネスコ食文化創造都市について説明したことで、小学生もとても身近に感じられたってところは非常に大きいかなというふうに考えています。

熱心に聞いていたということと、様々な説明に対して質問があったりとか、下の方、こういうのが5年生の感想なのですけれども非常に素直で、「すごいなあと思った。」「交流できてうれしかった。」

そして、「貴重な食文化をこれからも大切にしていきたい。」

これは本当に高校生が説明したことで実感できて、やっぱり小学生、小学生なりにですけれども、その食文化の価値については理解できたという取り組みというふうに考えております。

続きまして4の「幼と小の連携の取り組み」ということで、これは、すみれこども園さんの食育活動のことについて紹介させていただきたいと思います。

ちょうどですね、食文化についての取り組みを私と指導主事と教育長ちょうどタイミングが合ったので、すみれの様子を見に行った時の様子なんかもあるのですけれども。まず、すみれさんの食育活動の目的ということで、5歳までに食の基本が作られた子供たちの食の指導を行う、そして保護者に食に対する考えを向上させるということでの取り組みを進めていただいています。

様々な例があるのですけれども、皆さんご存知の臼杵せんべいなのですけれども、このような取り組みなのですけれども、私が見ていて思ったのは、幼児教育施設の先生方の凄さというのは本当に実感が伴った、五感を使った学習を自然に実施しているというところは、大変参考になりますし、このような取り組みがあるということも、もう小学校中学校先生が知った上で、幼小そして中をつなぐというのはとても大事だと思います。

このような実践、臼杵のメーカーの味を知ってみようという、触ってやっぱり硬いってところ。

そこから実際に味わってみて、いろんな子供たちなりの、砂糖甘過ぎた、しょっぱいからちょっと曲がったとか、また子供らしい発想が出てくるということ。

そして、子供たちがバニラアイス臼杵せんべいというのを考えて食べるっていう食育を生み出していくのですけれども、これは何かということですね、次のシート、11月11日ちょうど明日になるのですけれども、西南学院大学の文化祭で子供たちが、自分たちで考えた、いわゆるブースを作って臨時で出品するという取り組みを実現する予定になっております。

子供たちが臼杵のことを考えて、どんな食べ物を出したら喜ばれるか、そして、自分たちがどういうプロデュースというか、製品であったりそこを考え出したりしながら、進んでいったという取り組みになります。

これは西南学院大学と日本OECD国際共創プロジェクトの一環として、様々な教育課程をみずから生み出すというところでの研究が進んでいるという状況の一つになります。

子供たちがカップの制作をしたり、この色は虹色臼杵せんべいであるという形でPRするのを作ったりということでも看板を作ったりという形で進んでいるところです。

また、明日の様子はちょうど臼杵市教育委員会のこのような活動した子供たちが、新年度から小学校に上がってくるというところで、学びを繋ぎたいという思いから、教育長と私と指導主事で、その様子も見に行きたいというふうに考えているところでございます。

あと〈おわりに〉ってことなのですけれども、食文化の取り組みにつきまして様々な臼杵としては取り組みを進めているのですがまだまだ途上だと思っています。

	<p>ちょうどこの令和5年の12月15日ですが、日本のESD学会、education for sustainable development ことで、SDGsの教育版なのですけれども、そのESD学会が中心となった食文化教育フォーラム in 庄内ということで、山形県の鶴岡市、日本でただ二つの食文化創造都市に指定された都市ですけれどもそこが実施をされますので、様々な取り組みが紹介されるのですが、この中で、白柅市教育委員会としてもこの食文化の取り組みについて、発表することになっています。</p> <p>オンラインということが残念でぜひ実際に行きたかったのですが、なかなかそれも日程の都合で行けなかったのですが、オンラインで発表して、そして鶴岡市の取り組みの方もたくさん発表されますので、食文化繋がりということで、白柅の取り組みを発表して、または鶴岡市の発表を聞いたりしながら、うまく、今後の取り組みが繋がるように発信できるようにところを、考えながら取り組みを進めていきたいというふうに考えております。</p> <p>まずいろんなご意見よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>教育委員のみなさん何かありますか。</p>
村上委員	<p>説明ありがとうございます。</p> <p>幼稚園から高校まで学年を越えた取り組み大変素晴らしいと思つてうかがいました。</p> <p>その中で農泊体験ですが、農泊をした子供たちの意見をたくさん聞いたのですが、本当にとても楽しいということで別れたくないとか言つて泣いたという話も聞きました。</p> <p>もう一つ、給食献立で、地元農産物をできるだけ使つているというのはとても良い取り組みだと思ひました。</p> <p>ただ郷土料理として黄飯やかやくの作り方を教えるという郷土料理教室というか、各学校でもしていますが、私も食推協の一員として作り方というか、指導に関わつていますが、野津地域では黄飯とかかやくを家庭で作つていないので、郷土料理と言われてもぴんとこない子が多くて、初めてそのときに見たとか作るとかいう子が多かつたです。</p> <p>ただそのときに、包丁を握るのは2回目で1回目は農泊だったとかいう子がいた時には農泊はすごくいいなと思つたのですが、野津地区の子にこれが、白柅の郷土料理ですよというのはいいのですが特に決まつたレシピがなくて、味つけを私たちもわからなくて教えてくださいつて言つたのですが調理指導者として来ていた方からも、各ご家庭の味で作つてくださいつて言われて、家庭では誰も作つていないということなので、教えるのであれば完全に水の分量とか調味料とかそういうのも完全に決まつたレシピを配布するとかしないと野津地区では、郷土料理とは認識できてないようです。</p> <p>そこをちょっと改善していただきたいなと思ひました。</p>
学校教育課 参事監	<p>ありがとうございます。</p> <p>今おっしゃるように、合併もあつたのですが、できるだけ共通の献立を食べれるということの方針としてるんですけども、確かにそういったレシピまでなかなか浸透してないところで、今度令和6年8月から白柅センターで全市の給食を作るようになりますので、市全体の子供たちが同じメニューを食べるということで、その辺の配慮つていうか周知はしっかりやつていきたいなと思ひます。</p>

村上委員	<p>給食についてこの前新聞に出ていましたが、今まで、自分の学校で作ってた給食を食べた子供たちが、センターから送られてくるようになってからまずいとか味が薄いとか、すごい苦情が出ているという記事が出ていました。野津と臼杵ではまだ味が違うので、教育委員会の時に伺ったら、徐々にならすとか、慣れさせるというようなことも考えているって仰ってましたので、それこそ給食も臼杵と野津と同じレシピを使うとかして、子供たちが美味しくないと感じないようにして欲しいなと思います。</p> <p>給食を子供は楽しみにしているので、おいしいと思えるように、感じるようにして欲しいなと思います。</p>
学校教育課 参事監	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>統合で全市同じ給食になります。野津は昔からの伝統の味つけ、臼杵は臼杵の伝統の味つけがあると思いますが、できるだけそういう混乱が起きないように努めていきたいと思えます。</p>
村上委員	<p>よろしくお願いします。</p>
市長	<p>食育で三つ、給食指導と食育授業と広報啓発だと思うのです。</p> <p>その中でやっぱり一番肝心なところは家庭とどう繋がるかっていうことがあると思えます。</p> <p>親に対してどこまでつなげていくかというのは簡単じゃないですけど大きなテーマだと思います。家庭の中に入り込むのはなかなか難しいですが子供の健康のための食事っていうところから、もっとその辺は検討する余地があると思えますので、よろしくお願いします。</p>
学校教育課 参事監	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、年間4回どなたでも参加できる試食会というのがあります。</p> <p>給食を実際に食べていただくというところで、保護者の方とか参加をしていただいております。</p> <p>親子料理教室というのは夏休みに行って一緒に料理を作ってそれを食べるような取り組みをしておりますので、給食の理解を深めるということと家庭での食育につなげるところも努めております。</p>
市長	<p>農業関係者や有機農業推進室と教育委員会が学校給食でも連携していただいで大変いいことだなと思っております。</p> <p>今後お米もぜひ、臼杵の有機無農薬米で給食をやりたいと思っておりますので関心がありやりたいという農家を募っていますが、それがうまくいくと子供たちの給食を臼杵産の有機無農薬野菜と有機無農薬米で提供できます。</p> <p>現在、有機無農薬野菜は他より値段が1.5倍ほど高いですが、それだけ手がかかっています。ただそれを各家庭の給食費へ反映させないように市がふるさと納税などでいただいたお金で負担しています。</p> <p>こういった取組についてはどんどん進めていきたいと思っておりますので、これからも農業と給食の連携をよろしくお願いします。</p> <p>それでは次に移ります。先日開催した「臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会」について説明をお願いします。</p>

<p>秘書・総合政策課長代理</p> <p>市長</p>	<p>秘書・総合政策課の田渕です。私の方からは、「臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会について」説明させていただきます。着座にて説明いたします。</p> <p>先ず、この意見交換会の開催の経過について説明をさせていただきます。</p> <p>中学生と市長との意見交換会については、地域の未来を担う子どもたちに臼杵の現状や魅力、未来像を考えてもらおうと、中学校のご協力をいただき、意見交換会というかたちで開催しています。開催初年度の平成30年度は臼杵西中、令和元年度は南中、令和2年度は野津中、令和3年度は東中、昨年度、「令和4年度総合教育会議」を令和4年10月4日に開催いたしました。以降、令和4年10月31日に北中学校での開催により、臼杵市内の5つの中学校全てで意見交換会を開催いたしました。</p> <p>また、今年度の意見交換会につきましても先週の令和5年11月1日に西中学校で開催いたしました。</p> <p>それでは、令和5年11月1日に開催いたしました西中学校との意見交換会について「資料3」に沿って説明をします。A3で左上に資料3と記載の資料です。</p> <p>意見交換会の目的としては、1点目、自分たちが暮らす臼杵市について、自分との関りや興味・関心のあることや他地域での取り組みを参考にすることで、臼杵市の魅力を再発見し、町おこしの方法を考えること。2点目は、総合的な学習と社会科の学習を関連付け、その成果として、これまでの学習した内容を、工夫して相手に伝わるように発表すること。3点目は、自分たちが調べて考えた内容を市長と意見交換する中で、探究的な課題としてさらに発展させ、今後の臼杵市について考え続ける態度を育成することを目的としています。</p> <p>当日は7チームに分かれて生徒による提案発表や市長と生徒との意見交換を1チーム11分の持ち時間で実施いたしました。各チームからの提案タイトルや内容について、資料3の右側へ掲載しています。生徒たちからの提案発表の内容は調査・研究が重ねられて充実していました。</p> <p>意見交換会後の生徒の感想発表では、「市長との意見交換会までに、七つの班に分かれてたくさん準備してきましたが、今日しっかりとすべての班がとてもいい発表ができていたのでよかったと思います。僕たちの未来についてしっかりと考え、新時代を作っていくために臼杵とたくさん協力していきたいと思いました。」など感想をいただき、とても有意義な意見交換会となりました。</p> <p>また、昨年度令和4年10月31日に臼杵北中学校3年生63名と開催いたしました意見交換会においても7つのテーマで市長と意見交換会を行い、そのなかで「ほんまもん農産物」の知名度を高めるために「ほんまもん農作物のロゴマーク」の開発提言がありました。現在、生徒がデザインした、臼杵市の代表的な農産物と臼杵市の名前の由来とされている、臼（うす）と杵（きね）にあてはめて作成したロゴマークを実際にほんまもん農産物の梱包用ダンボールなどとして活用しています。本日は、みなさまのお手元にロゴマークを使用したクリアファイルをお配りしています。</p> <p>これからも生徒たちが、学習で得た調査・研究成果を市長との意見交換など行うことを通して、将来の臼杵を担う若者として、自らが地域課題の解決に取り組む重要性を感じ取っていただくきっかけになればと考えております。</p> <p>以上で秘書・総合政策課からの報告を終わります。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>11月1日に行われました、西中の3年生と私との意見交換会の概要について今、担当の方から説明ありましたが教育長は参加していただきましたが、他の教育委員さんはいらっしゃらなかったの何かこの資料見ながら質問とか意見がありましたら出していただきたいと思います。</p>
------------------------------	--

村上委員	この一番上の少子高齢化チームの「習い事塾の公費負担」というのは、公費負担をして欲しいという意味ですか。それとも公費負担しているということですか。
市長	これは中学生からの提案で、公費負担して欲しいということです。 「市長頑張って」ってことです。
村上委員	はい。わかりました。
市長	また、給食費を無償化する提案がありました。それに対して臼杵市は給食費無償化より先ず来年4月から高校生までの医療費を無料化する方向で進めておりますということと、同時に臼杵市としては給食費を無料ですよということの以前に、我々は子供の健康ということで先ほど麻生参事監から報告があった取り組みをしていて他市ないところを今までやっている説明をいたしました。 あと私は全国市長会の会長をさせていただいていますので給食費無償化については国が率先してやるべきだということで全国市長会要望をしている話をいたしました。 ただ、生徒もよく考えていてすべての生徒の全額無償化ではなく生徒一人の世帯は1000円補助して多子世帯は補助額増やすなど段階的な発想でかなりいろんなところを考えた上での提案でしたので生徒の思いはしっかり受けとめました。
教育長	村上委員の言われた「習い事塾の公費負担」について市長は「中3生公民館教室」や「放課後こども教室」を開催して先生を派遣し塾に行く人も行かない人も誰でも平等に学習ができる取組にお金を使っているともお答えしていました。
市長	塾や習い事について、受験用の学習塾やピアノなどいろいろとあって定義やどこまでを範囲にするのかは難しいねと話しました。 それともう一つは中学校の部活を地域移行については親の負担が増えるので費用問題の検討を優先したい話もしました。
村上委員	いいと思います。 水曜放課後教室へ私もサポートをさせていただいたのですが、力がつく子どもが相当多いです。また中3公民館教室についても親御さん方が喜んでいきます。 どの子どもも平等に参加できるという視点からとても良いことだと思います。
市長	今度の市報でも西中学校での中学生との意見交換会についてはお伝えいたしますが、シニアカフェをつくって若い人と交流をしたり、そこで高齢者が持っている技術でつくった物を売って運営を行うなど、何かをしてくださいということだけではなく現実を踏まえた提案が多くありました。 また、農漁業では担い手が減っているから外国人の方に漁師になってもらうのはどうなのだろうか、これまでの感で行う漁業ではなくITを使っての漁業も考えられるのではないかといい時代を見据えた提案もありました。 これは、先生方が中心となり教育委員会の皆さんが後押しをしていると思いますがアクティブラーニングでタブレットなど使って自主的に積極的学習して生徒が自分のものにしていくと感じています。 今回は中学3年生だったのですがこの中学校3年間の成長はすごいな、本当に大切な3年間だなあということを感じながら、先生方と教育委員会の皆さん一生懸命やっていただき良い子が育っているなというのが正直な感想でした。

	<p>中学生との意見交換会についてはぜひ今後も続けていきたいと思っています。</p> <p>この件についてよろしいでしょうか。それでは全体で何か言い残したことがあればお願いいたします。</p>
村上委員	<p>先月の中央公民館でAEDを使用する事例が発生しました。</p> <p>その方は女性でしたがAEDを使用するときの体を隠すためのシートとか、あと体全体を覆い隠す救命テントなどが施設のAEDに設置していないようでしたので市の施設関係のAEDに準備していただけたらと思います。</p>
教育次長	<p>消防本部からAEDとセットで配置する布を配布されていると認識していますので確認いたします。</p>
市長	<p>いつどこで何が起こるかわからないので、しっかり対応しなければいけません。確認をお願いします。</p>
木本委員	<p>今回課題であがっている自己肯定感については以前から課題となっている項目です。また国際化など含めて多様な価値観を持つなども若干改善課題としてあると思います。それらの改善には学校教育の場だけではなく保護者を含めて高齢者や地域の方々など多くの大人たちにかかわる場面を多く作って大人達の前向きな姿を伝えることが大事だと思いますので教育委員会だけではなく臼杵市をあげて取り組むといいと思っています。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>なかなか自己肯定感というのはどうすればいいとか改善するとか難しい問題と思いますが神田委員はいかがでしょうか。</p>
神田委員	<p>木本委員の仰る通り、自己肯定感がずっとアンケートで少し足りないぐらいの状況ですが、自信というのもあると思います。</p> <p>市長にずっとお伝えしていますが、この中学生と市長との意見交換会で市長が直接学校に行くことがとてもいいことだと思っています。提案が実際にロゴマークとして実現すると、それが自信になると思いますし、そこからもしかしたら画家になるイラストレーターになるかもしれないし、そんな夢の作り場であるのがこの意見交換会であって欲しいなと思っていますのでこれはぜひ数多く開催して続けていただければと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>佐藤委員さんお願いいたします。</p>
佐藤委員	<p>保護者の立場としてお礼も兼ねてですが、中3公民館教室について本当にありがたいと思っています。退職された教職員の方を集めるのも大変でしょうが今後も続けていただけるようお願いいたします。</p> <p>あと、臼杵市は小学校5年生、中学2年生とも学力レベルが全国的にも高いということがわかりましたが、私は小学校入学して小学3年生ころがちょうど転換期というか学校において、勉強のことや友達のことなどいろんなことが変わってくる時期だと思いますので先生方には目を配っていただけるとありがたいです。</p> <p>また、中学1年生についても生徒数が増えるなど同じように環境が大きく変わる時期なので注視していただければありがたいです。</p>

<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。 保護者の代表としての意見をいただきましたが教育長いかがでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>ヤングエージ年代からだんだん大人になっていく時期ですから、小学校から中学校の小中一体教育でもありますので今後も注視していきたいと思えます。</p> <p>本日、報告があった学力の件につきましては良いことにこしたことはないし大変喜ばしいことですが、これだけがよくて一喜一憂するのではなく、先ほど報告があった西中学校での中学生と市長との意見交換会において大勢の前で西中学校生徒が市長と堂々とロジカルに意見交換することができるといった基礎的な人間力をつくるためのベースが学力になります。木本委員から話があった多様性など子どもたちに必要な資質能力をどういう学校環境があれば育てていけるがポイントだと思います。</p> <p>これからの臼杵の子どもたちにはそういう基礎的な人間力をつけていきたいと思っています。</p> <p>今度の教育フォーラムでもそのあたりを語りたと思っていますので、どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>私は、先人が苦勞しながらつくりあげたものを引き継いで、我々が少しでも次の世代へ良いものを渡せるかが臼杵のこれからのまちづくり、人づくりに繋がっていくと思えます。</p> <p>我々親が頑張り子どもたちの良い環境をつくっていけば、子どもたちが次の臼杵へ繋げてくれると思っています。そういう意味では、教育に関わる皆さんには大変息の長い長期的な展望を持ちながら頑張っていたきたいと思えますので、今日は課題とかいろんなものも出てきたと思えますそれぞれの立場でそれをかみしめながら、教育を次へステップアップするために取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>本日はお忙しい中、活発なご意見ありがとうございました。終了時間になりましたので、以上で、本日の議事を終了いたします。</p> <p>事務局に会の進行を戻します。</p>
<p>閉会 秘書・総合政策課長</p>	<p>本日は、大変お忙しい中、また長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>今年度の事業の取組について進捗や課題を確認することができました。今後も引き続き検証を行い、教育大綱に沿った姿を目指していければと思えます。</p> <p>これをもちまして、令和5年度総合教育会議を閉会致します。</p> <p>ありがとうございました。</p>